

事業名	地域総合オアシス整備事業（ため池等整備）		事業主体	大阪府
所在地	熊取町		地区名	熊取地区
再評価理由	②事業採択後5年を経過 採択：H7年度		工期	H7年度～H15年度
事業概要	目的	本地区は、雨山川水系の主要な10箇所の老朽化したため池の改修と、親水・景観や生態系保全のための整備を行い、地域全体の安全なまちづくりと、地域の人々に「うるおい」と「やすらぎ」を与える水辺環境を創造することを目的とする。		
	内容	ため池改修10箇所（長池、下池、弥沢池、皿谷池、弘法池、青池、寺池、東谷池、別所池、和田新池）、水質保全施設整備1式、親水・景観のための施設整備1式、生態系保全のための施設整備1式 事業費 1,613,000千円		
進捗状況等	進捗状況	工事中4箇所（長池、下池、弥沢池、皿谷池）		工事進捗率 45.0%
	残事業	未着手6箇所（弘法池、青池、寺池、東谷池、別所池、和田新池）		
	事業着手	平成7年度		
事業を巡る社会経済情勢等	歴史的背景	熊取町域は平安時代から「熊取の里」として開け、農耕が営まれ、古くから水田の発展とともにため池が造られ、現在でも大小300余りが現存している。 この地域では、多くのため池により農業用水や生活用水が確保されてきたが、同時に「雨の神」である「クラオカミ」を祀る雨山への信仰も続けられた。干ばつ時には農民が雨山踊りを奉納し、雨乞いを行ったことが記録に残されており、毎年9月1日には豊作のお礼、雨山への感謝として「八朔祭り」が地元の人々により行われている。 当地域総合オアシス整備事業の対象となる「雨山川水系」のため池群は、皿谷及び雨山を水源としており、古いものでは室町時代から存在が確認されている。		
	地域の状況	本地区は、古くからため池を用水源として、水田農業を営んできた地域で、水稻の他にたまねぎ、里芋、キャベツ、ふき、水なす等が作付けされており、中でもたまねぎの一大生産地を形成している。 雨山水系のため池は多くの動物や昆虫、植物の生息地であり、ピオトープとしての機能を有している。近年これらのため池は、老朽化が進み、堤体の浸食が著しい状況にあり、一部漏水も起こっており、危険な状態にある。 一方、周辺の都市化が進む中、農業用水の確保だけでなく、良好な水辺環境の整備を行うことにより、地域のアメニティとしての役割も期待されている。		
	社会経済情勢の変化	ため池は、農業用水の確保はもとより豪雨時に洪水被害から下流地域を守る防災機能も有している。しかし、築造以来長い年月を経て老朽化が進んでおり農業団体はもとより周辺住民からの改修要望が増加している。 オアシス構想策定（H3）の際に行ったため池関係のアンケート調査（無作為に抽出した20歳以上の府民1,000人を対象）では、府民はため池のもつイメージとして、「農業用水」との意見が47.1%を占めている。一方、農業用水としての利用度が減ったため池については、「保全しつつ地域ニーズを考慮した利用をすべき」や「現在もっている効用を利用すべき」等の潰廃すべきでないという意見が88.1%を占め、さらにため池の整備の方向としては、「散歩」「生態観察」「魚釣り」「休息」等多様な整備内容を望んでいる。		

事業名	地域総合オアシス整備事業（ため池等整備事業）		地区名	熊取地区
事業を巡る社会経済情勢の変化	社会経済情勢の変化	<p>また、平成9年の府政モニター300人に行った、農空間基本方針策定調査によると、ため池を含む農空間への期待については「農空間の余暇的活用」が56.5%、「農空間の保全・整備」が37.0%、「交流・PR・イベント」が33.3%、「教育・福祉的活用」が21.3%、「食料生産」が17.0%であった。</p> <p>以上の結果から、ため池については、災害時に水や空間が利用できる地域防災機能や、生態系保全、自然学習、レクリエーションのための空間としての機能に対する府民の関心と要望が高まっていることが伺える。</p> <p>熊取地区では、「ため池環境コミュニティ」づくりをめざして、地域住民が中心となって、長池、弥沢池、長池下池の3ヶ所の池を対象に、ワークショップ形式による種々の活動を平成6年度から行っている。参加メンバーはため池周辺の住民や水利関係者等からなり、総勢52人となっている。</p> <p>活動開始年度から、メンバーによるため池の現地調査を行い、専門家によるため池の生き物に関する講義等を受けるとともに、ため池の維持管理活動を体験するために「草刈り大会」などを行った。さらに地域の住民や地元水利組合等が中心となって、護岸工法や管理棟、遊歩道、ベンチ、休憩施設、池周辺の植栽等の施設の整備について検討し、現地を確認するなどして、「長池オアシス整備計画」を策定した。現在、この整備計画に基づき事業を実施しており、弥沢池に新たに造成された体験農園については、平成12年4月の開園に向けて、その管理のしくみや規約を検討しており、開園を契機としてため池周辺地域の住民だけでなく、町全域の住民の活動へと広がりつつある。</p>		
	事業効果（費用対効果分析等）	<p style="text-align: center;">別紙— 1 参照</p>		
その他特記事項	コスト削減策	ため池の浚渫土を利用した広場等の公共用地の造成		
<p>本事業は、ため池が群となっている地域において、河川の水系ごとにつながっているため池を総合的に整備し、広範な地域の防災対策、環境整備を重点的に行うものである。</p> <p>特に、長池周辺住民によるワークショップ活動は、民間基金による助成を受けたり、各種シンポジウムに参加するなど、オアシス活動の情報発信を積極的に行っており、府としても、府民参加による身近な快適環境づくりのモデルとして位置づけている。</p>				
（事業概要図）別紙— 2 参照				